令和６年度　能美市立辰口中学校　学校評価　【中間】

2024年9月

重点目標（めざす姿）		具体的方策	主担当	【評価指標】<成果指標><努力指標><満足度指標>	【評価の根拠】達成度判断基準	取り組みの成果及び課題への対策	評価	学校関係者評価者による意見 今後の改善策
1	組織的な学校運営	①情報共有を充実させ、主任等を中心とした同僚性・専門性を活かし研修・協働する中で、教員の資質能力の向上を図る。	教頭	〈成果指標〉 主任層のリーダーシップのもと、各分掌と学年が縦横の連携を図り、教員が資質能力を高め、組織的な学校づくりを行う。	〈教職員アンケート 1〉 学校経営ビジョンを理解し、必要な情報を共有し連携を図り、一人一人が資質能力を高めて組織としての高まりを実感しているか。	〈教職員アンケート 1〉100% 学校経営ビジョンの中長期的経営目標のひとつである「組織的な学校運営」にあるように若手や主任層の人材育成という視点を持ちながら、分掌部会を組織し、経験を若手に伝えて学校運営への参画意識の向上を図ってきた。また、運営推進委員会では管理職、各主任・主事を交えながら、共通理解を図り、学校全体の推進力を生み出してきた。今後も各自が主体的に学校づくりに取り組む組織体制を継続していく。	A	<学校関係者評価者による意見> ・先生方の主体的な取り組みはすばらしい。業務が多くて忙しすぎるので、必要なところに重きをおき、ICT等をうまく活用できるとよい。また学校運営協議会でお手伝いできることがあれば言ってほしい。 ・いじめや不登校等への取り組みに対しては生徒へのきめ細かな対応が伝わってくる。 <今後の改善策> ・勤務時間の短縮については、ペーパーレス化を進めたり、保護者との連絡にコドモンを活用したりしていく。また業務の平準化にも努めていく。 ・自動採点など業務改善につながるものは積極的に取り入れていく。
		②「気づき」を大切にし、常に改革・開発の意識で力リキュラム・マネジメントを充実させ、自身の働き方を見直し、多忙化改善の具体的な取り組みと平準化の工夫を図る。	教頭	〈努力指標〉 見通しを持ち業務の改善・効率化を図り、勤務時間の短縮に努め、月２回定時退校している。	〈教職員アンケート 2,3〉 常に課題意識を持ち、周囲に伝えながらよりよい学校づくりに参画し、見通しを持ち効率的に業務を行い、勤務時間を短縮できたか。	〈教職員アンケート 2〉96% 〈教職員アンケート 3〉55% 常に課題意識を持ち、周囲に伝えながらよりよい学校づくりに参画する意識は96%であった。しかし、勤務時間の短縮においては様々な業務があり、改善に課題が見られた。今後はICTの効果的な運用などにより業務の時間短縮に努めていく。また、カリキュラム・マネジメントの視点から学校行事をはじめとする教育活動の見直しを行い、より効果的な教育活動となるよう修正等を行っていく。	D	
		③安全対策や危機管理の意識と指導力を高め、いじめや不登校等に対し組織として計画的に未然防止に取り組むとともに対応を迅速に行う。	生徒指導	〈努力指標〉 情報交換を密に行い、各主任や担任・学年会が縦横の関係でいじめ・不登校に対し組織的に対応している。	〈教職員アンケート 4〉 情報の共有化が密にできており、いじめ・不登校傾向にある生徒に対し、未然防止や早期の適切な対応ができたか。	〈教職員アンケート 4〉96% 定期的な相談の会や生徒指導の会、学年会や職朝での情報共有等漏れのないよう丁寧な情報共有ができている。また、対応についても管理職を交えて組織的に行えている。未然防止の視点をより具体的に持つために、職員会議での呼びかけやいじめ対応アドバイザーの派遣を依頼し校内研修会を行うことを計画している。数値で満足せず、目の前の生徒が安心・安全でより良い学びを得られるよう、工夫や改善を考え続けていく。	A	
2	確かな学力の育成（知）	①教科と総合的な学習の時間の学びを往還させ、「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業を展開する中で、授業をコーディネートする力を高め、ＧＩＧＡスクール構想を意識した授業改善を図る。	研究	〈努力指標〉 各教科および総合的な学習の時間で、ICT機器を活用して生徒の思考を促す工夫を行い、まとめと振り返りを充実させ、主体的･対話的で深い学びを実現する。	〈教職員アンケート5, 6,14〉 〈生徒アンケート 16,20,34,35〉 〈保護者アンケート11〉 生徒自身に、思考・判断し表現させることを積極的に行っているか。GIGAスクール構想を意識した取り組みができているか。生徒が学びの高まりを実感しているか。	〈教職員ｱﾝｹｰﾄ 5〉96%〈6〉100%〈14〉96% 〈生徒ｱﾝｹｰﾄ 16〉94%〈20〉94%〈34〉100%〈35〉96% 〈保護者ｱﾝｹｰﾄ 11〉84% 目標達成にこだわった授業づくりのために、生徒が思考・判断し表現させることをどの教科においても積極的に行っている。また、ICT機器をどの授業においても頻繁に活用することによって生徒の学びが深まり、生徒もそのことを実感できているようである。今後もICTの校内研修会などにより、ICTの効果的な活用について学び、一層目標達成にこだわった授業を目指していく。	B	<学校関係者評価者による意見> ・アンケートの結果の数値が高く、ICT機器の活用が授業に浸透していることがわかる。生徒たちはよく頑張っている、先生方の「わかる・できる」授業の実践も評価できる。 <今後の改善策> ・ICTの効果的な活用については継続させながら、より個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させるために、生徒に委ねる時間を授業の中で確保していく。 ・11月のリーディングDXの公開授業に向けて、教科部会で取り組みを共有し、良い実践を教科の枠を超えて共有していく。 ・学力向上プランに従って、取り組みと定期テストでの検証を確実に行い、各教科における資質能力の育成を図る。
		②「授業の辰人スタイル」を身に付け、生徒の自ら学ぶ積極的な態度を育てるとともに、生徒全員が「わかる・できる」授業をめざす。	研究	〈満足度指標〉 「授業の辰人スタイル」を意識した授業を行い、場面を逃さずに褒め、生徒全員が「わかる･できる」と実感できる授業を創る。	〈教職員アンケート 7〉 〈生徒アンケート15, 18〉 自ら学ぶ積極的な態度が身につき、授業がわかり、できるようになった実感があるか。	〈教職員アンケート 7〉100% 〈生徒アンケート 15〉96%〈18〉96% 職員が「授業における辰人スタイル」を意識しながら、生徒の活動時間や発話の確保に努め、わかる授業づくりを進めている。その結果、生徒も課題に対して主体的に学び、それにより「わかる・できる」という実感を持つことができているようである。今後も、生徒に委ねる時間の確保に努めていく。	A	
		③学びのPDCAを構築し、計画的、組織的に学力の検証と学びの改善を重ね、基礎的知識・技能の定着と、これらを活用する思考力・判断力・表現力を育成する。	教務	〈成果指標〉 学力向上ロードマップを活用し、基礎的知識・技能や思考力・判断力・表現力等の向上に努めている。	〈教職員アンケート 8〉 PDCAサイクルを実施し、学力の検証・改善がなされ、様々な面での学力の向上に表れているか。	〈教職員アンケート 8〉96% ４月に全国及び県の学力調査の自己採点を行い、各教科で学力向上プランを作成した。今年度はより課題を絞って取り組みを焦点化することに重点をおいた。学力調査の結果公表後に分析をもう一度見直し、２学期以降の取り組み内容を各教科で共有した。今後はプランに従って取り組みと検証を確実に行い、求められている資質能力の育成に努めていく。	A	
3	豊かな心の育成（徳）	①集団の中での自分の役割を果たすことを通して自己肯定感を高められるよう、認め合える温かな学級づくりをめざす。	生徒指導	〈満足度指標〉 生徒指導の４つの視点を意識し、学習集団、生活集団としての機能を高める学級づくりに努めている。	〈教職員アンケート 10〉 〈生徒アンケート 29〉 Q－Uアンケート結果や生徒面談を活かし、親和的な学級づくりに努めているか。生徒の自己肯定感が高まっているか。	〈教職員アンケート 10〉100% 〈生徒アンケート 29〉93% 教職員においては、各学年、各学級ともアンケートや面談をもとに親和的な学年学級づくりや、各個人に対しても非常に丁寧に指導にあたっている。生徒においても、各種行事における役割や、クラス内の一人一役など役割を与えらる場面が多くあり、そこで自分の役割を果たそうと動ける状況を今後も設定し、自己肯定感が高められる場を意図的に作っていく。	A	<学校関係者評価者による意見> ・生徒が学校生活の中で自分の力を発揮し、のびのびと活動している様子がうかがえる。 ・生徒主体の活動が進められ、自己有用感の高まりを感じられる。更に伸びるとよい。 <今後の改善策> ・今後も生徒会活動を中心とした生徒主体の取り組みを推進していく。また運動会や文化祭でも生徒たちが自己有用感が高まるようなしかけを行っていく。
		②生徒会活動やボランティア活動を通して自治・自浄の能力を高めるとともに、他のために役立つ自己を実感させる。	生徒指導	〈満足度指標〉 生徒会活動やボランティア活動に積極的に取り組み、発達支持的生徒指導を行っている。	〈教職員アンケート 9〉 〈生徒アンケート 26〉 生徒会活動やボランティア活動を推進し、学校生活を充実発達支持的生徒指導を行っているか。生徒の自己有用感が高まっているか。	〈教職員アンケート 9〉100% 〈生徒アンケート 26〉81% 教職員アンケートにおいて、昨年度と比べて7Pの上昇であった。生徒主体で、委員会単位で生徒から発信するものも以前より増えている。生徒会の提案から各委員会が動くこの形態を継続していく。また、ペットボトルのキャップ回収やボランティアチャレンジにも多くの協力を得ることができたので、そのような呼びかけも続けていく。	B	
4	健やかな心身の育成（体）	①生徒の不安や悩みを迅速に把握し、解消できるように相談体制や居場所を充実させ、困り感のある生徒には個に応じた配慮を工夫する。	生徒指導	〈満足度指標〉 教育相談体制を充実させ、生徒の実態を把握・共有し、問題の解消に努めている。	〈保護者アンケート 5〉 学校は、不安を持っている生徒や困っている生徒の実態を把握し、問題の解消に努めているか。	〈保護者アンケート 5〉80% 教育相談の会での情報交換や支援体制の確認、相談室の活用による居場所の確保など対応はできている。また、生徒との個別の面談により、不安や困り感を吸い上げる体制を続けている。スクールカウンセラーや外部専門機関の紹介など、困り感のある生徒に応じた対応を行う。	B	<学校関係者評価者による意見> ・不安を抱える生徒への細かい配慮は大変だと思うが、継続して支えてほしい。 ・ネットのルールに関しては情報化社会の大きな課題である。保護者と協力し、生徒自身が自ら考え、適切な行動ができる対策があるとよい。 ・体力の向上については運動会や新人戦に向けて頑張ってほしい。 <今後の改善策> ・夏休み明けも生徒たちは変わらず頑張っている。困り感のある生徒に対しては、引き続き情報交換しながら支援していく。 ・小学生の頃からスマホをもつ生徒も多い。小学校とも連携しながら、生徒が使い方を学べるような機会を定期的に設けていく。 ・部活動の地域移行の動向を見ながらも、本校として継続して部活動の充実を図る。
		②家庭と連携してインターネットのルールを徹底するとともに、起きる時間、寝る時間、学習時間を確保するなど望ましい生活習慣の確立を図る。	生徒指導	〈満足度指標〉 家庭と学校の連携力が高まり、家庭のネットのルールが守られ、良い成果が出てきている。	〈保護者アンケート 6,8,9〉 ネットトラブルやネット依存防止のために、フィルタリングやルール作りを行っているか。 〈生徒アンケート 22〉 〈教職員アンケート 12〉 時間の３点確保を行い、望ましい生活習慣が確立できたか。	〈保護者アンケート 6〉79%〈8〉85%〈9〉83% 〈生徒アンケート 22〉76% 〈教職員アンケート 12〉97% ネットとの向き合い方については、学校全体や各学年等で生徒の現状や行事等の機会を想定し、定期的に行っている。ネットはもちろん、より良い生活リズムのために時間の見通しを持たせられるよう、家庭への呼びかけも含めて、学校での取り組みは引き続き行っていく。また、小中連携の視点も加えていく。	C	
		③体育的活動・部活動を中心に、仲間と協力しながら、体力を高めるとともに、自分で設定した目標に向かって努力する。	保健文化	〈成果指標〉 体育的活動・部活動を通じ、親和的な人間関係を育みながら体力を向上させ、自分なりに設定した目標に向かって努力している。	〈教職員アンケート 11〉 生徒が目標達成に向けて努力しようとする姿は向上しているか。 〈生徒アンケート 33〉 部活動は楽しく充実しているか。	〈教職員アンケート 11〉85% 〈生徒アンケート 33〉96% 部活動や体育授業への参加が、コロナ禍から正常化してきて制限なく取り組めるようになってきている。熱中症対策を行い、WBGT（暑さ指数）を確認しながら工夫して活動を行っている。生徒たちは個々に体力の向上も目指し、意欲的に活動に参加しているものと思われる。今後も体調に留意して体力向上を目指していく必要がある。	B	
5	家庭や地域との連携	①地域の特色を積極的に学習に活かす中で地域の未来や、社会貢献、自分の生き方を考える等、教育活動の更なる充実を図る。	教務	〈努力指標〉 地域のヒト・モノ・コトを活用し、地域や自分の在り方を考え、社会貢献できる生徒づくりに努めている。	〈教職員アンケート 13〉 教科横断的な視点を持ち、地域リソースを生かした教育活動が行えたか。 〈生徒アンケート 13〉 地域とのつながりを考え、地域の方々や先生から学ぶことができたか。	〈教職員アンケート 13〉96% 〈生徒アンケート 13〉98% １年生は校外学習で「能美ふるさとミュージアム」を訪問し、２年生は夏季休業中に職場体験を実施するなど地域リソースを生かした教育活動を行うことができた。また２学期は総合的な学習の課題研究において、地域との連携を図りながら各自の研究を深めていく。	A	<学校関係者評価者による意見> ・今後も学校運営協議会が学校を支援し、地域とつなぐ役割を担っていきたい。現在家庭科や数学科の授業を中心に支援に入っているが、他教科でも要望があれば言ってほしい。 <今後の改善策> ・今後も学校運営協議会に支援してもらいながら、家庭や地域との連携を図っていく。
		②学校運営協議会と連携し、学校・家庭・地域の協力体制を構築し、よりよい学校づくりを推進する。	教頭	〈満足度指標〉 学校と家庭、地域の連携力が高まり、良い成果が出てきている。	〈保護者アンケート7, 10〉 学校と家庭、地域が連携して子どもを育てていると感じているか。	〈保護者アンケート 7〉90% 〈保護者アンケート 10〉80% 行事から日常的な学校生活の様子まで、学校HPの充実に努めている。また、「コドモン」による学校・家庭の双方向の連絡ツールの使用により、各種便りの配信や保護者の意見等もキャッチできた。授業においては学校運営協議会の支援のもと、様々な教科において多数の地域の方に協力いただき、活動することができた。引き続き、学校と家庭、地域が連携して子どもたちを育てていく。	B	

◆【評価の根拠】は生徒・保護者・教職員アンケートによって、≪肯定的な意見がＡ：９０%、Ｂ：８０%、Ｃ：７０%、Ｄ：７０%未満≫として評価する。
◆評価は＜１：そう思う、２：どちらかと言えばそう思う、３：どちらかと言えばそう思わない、４：そう思わない＞の４つで選択する。
◆各項目で評価をする際に、２つ以上のアンケートを必要とする場合は、上記の意見で低い方の結果を評価する。